金沢文圃閣

一、本とひとびとをつないだその風景が、
写真などのビジュアル資料で
鮮やかに再生収録。
二、年に25万冊以上を貸出した、
貸本屋「マツノ読書会」の
活動を詳細に
記録・分析した
㊙資料を収録。

書誌・出版史・書物メディア史のシリーズ ＊文圃文献類従 28＊

貸本関係資料集成
―戦後大衆の読書装置
【補遺編】

編―浅岡 邦雄・大竹 正春・梶井 純・藤島 隆

「これはすごいことではあるまいか。貸本屋を
知らない者でも、本書を開けば、貸本屋体験が
できるのである」出久根 達郎（作家）

全八巻＋別巻［新組み＋編集復刻版］

第一・二巻

マツノ読書会

戦後高度成長期、30,000人の読者と貸本を通じてコミュニケーションを交わした、若くて新しい貸本屋「マツノ読書会」の日々を追う。

一・二巻……貸本屋「マツノ読書会」資料①・②

【一巻】約288頁
『貸本屋「マツノ読書会」日記1958年』
『貸本屋「マツノ読書会」日記1959年』

【二巻】約312頁
『貸本屋「マツノ読書会」日記1960年』
『貸本屋「マツノ読書会」業務日誌1971年』
業務・業界資料
「新しい時代の貸本店の手引」1955年4月
「〔新しい時代の貸本店の手引―送り状〕」1956年10月
「就業規則」刊記無
「マツノ読書会経営参考資料」〔1963年〕
「徳山、神戸貸本業界視察記」1963年5月

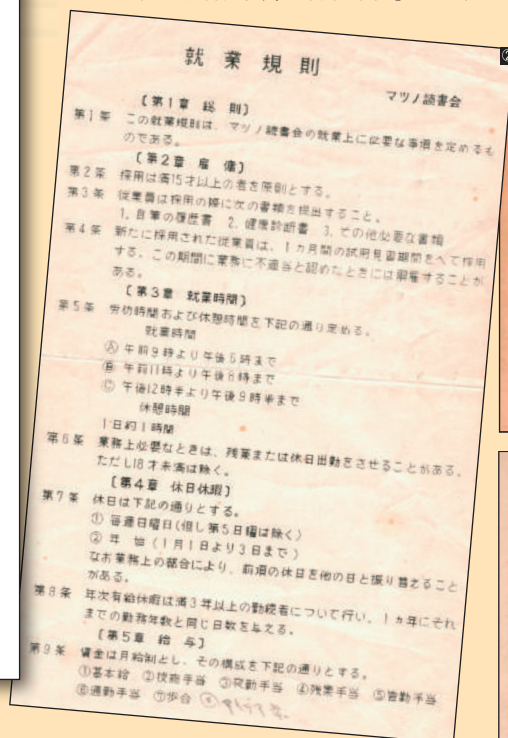
①

貸本屋「マツノ読書会」日記1958年

1月1日　水曜　曇、夜雨
この日記帳には店のことしか書かない。
なんでもよい、店のことを書いてゆけば、将来、非常によい資料になるだろう。
一年一度の休業日。4〜5日前からのはり出しでは徹底しないとみえて問合せの電話が4〜5回かかった。
今年は去年に比べて1日から開けている店が多い。中央街なぞ軒なみだ。
中村さんがキモノ着てお年始に来た。一緒にトランプをやった。
貸本の会員では徳曹〔徳山曹達、現・トクヤマ〕の日下さん、駅の藤岡さん、貸本業者では河村（富田）、広畑・津田（下松）、山本（秋穂）から年賀が来た。

1月2日　木曜　曇、寒風強し
正月で、支店の雑誌と本店の古本を大いに期待したのだが、案外つまらなかった。支店の雑誌は、今は品物が沢山あるが、この3ヶ月ぐらいはあまりやらなかったので大分信用が落ちたのだろう。
貸本は、例によってふつうの日よりうんと悪く185〔冊〕。やはりうちは、他の貸本店が出なくなる4日頃から本格的によくなるのだ。
古本も古雑誌も、俺が貸本につき切りになってから落ちた。
やはり1日一度は俺が見まわって値段の入れ替えや管理をしなければならない。そのためには、貸本を明美〔長妹〕にゆずり、卸には適任者を起用せねばならない。

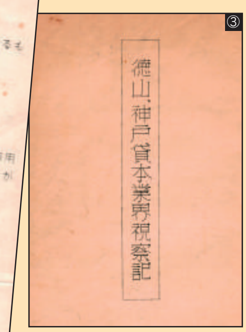
1月3日　金曜　曇、時々雪、寒風
経験は勿論絶対に必要である。だが、俺の狭く浅い経験だけではいくらつみ重ねても、ある程度以上のことは出て来ない。「思いて学ばざれば、すなわち暗し」である。
俺は学ばなければならない。まず、『商業界』『商店界』などには必ず目を通すこと、経理の勉強をすること、等々に。
今日は寒いので支店の方はさっぱりだった。


②

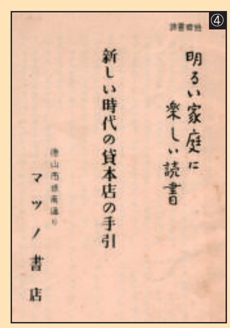
就業規則

マツノ読書会

〔第1章 総則〕
第1条 この就業規則は、マツノ読書会の就業上に必要な事項を定めるものである。
〔第2章 雇傭〕
第2条 採用は満15才以上の者を原則とする。
第3条 従業員は採用の際に次の書類を提出すること。
1. 自筆の履歴書 2. 健康診断書 3. その他必要な書類
第4条 新たに採用された従業員は、1カ月間の試用見習期間をへて採用する。この期間に業務に不適当と認めたときには解雇することがある。
〔第3章 就業時間〕
第5条 労働時間および休憩時間を下記の通り定める。
就業時間
Ⓐ 午前9時より午後6時まで
Ⓑ 午前11時より午後8時まで
Ⓒ 午後12時半より午後9時半まで
休憩時間
1日約1時間
第6条 業務上必要なときは、残業または休日出勤をさせることがある。ただし18才未満は除く。
〔第4章 休日休暇〕
第7条 休日は下記の通りとする。
① 毎週日曜日（但し第5日曜は除く）
② 年始（1月1日より3日まで）
なお業務上の都合により、前項の休日を他の日と振り替えることがある。
第8条 年次有給休暇は満3年以上の勤続者について行い、1カ年にそれまでの勤務年数と同じ日数を与える。
〔第5章 給与〕
第9条 賃金は月給制とし、その構成を下記の通りとする。
①基本給 ②技能手当 ③夜勤手当 ④残業手当 ⑤皆勤手当
⑥通勤手当 ⑦歩合


③

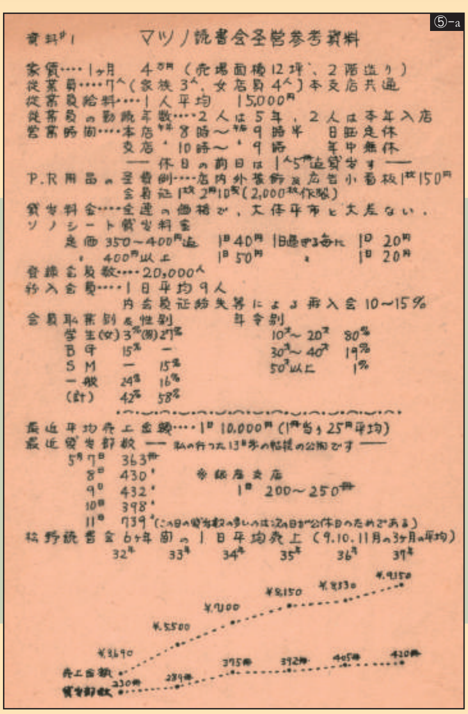
徳山、神戸貸本業界視察記


④

明るい家庭に楽しい読書

新しい時代の貸本店の手引

徳山市銀南通り
マツノ書店


⑤-a

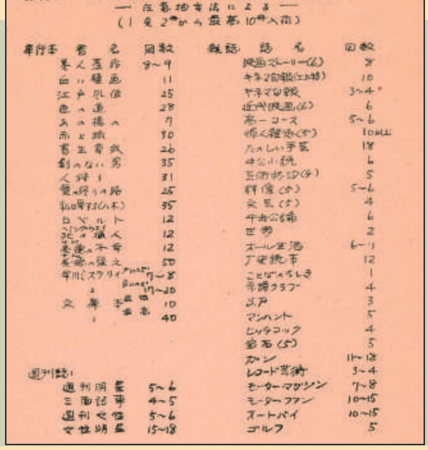
資料#1　マツノ読書会経営参考資料

家賃……1ヶ月　4万円（売場面積12坪、2階造り）
従業員……7人（家族3人、女店員4人）本支店共通
従業員給料……1人平均　15,000円
従業員の勤続年数……2人は5年，2人は本年入店
営業時間……本店 平日 8時〜平日 9時半　日曜定休
支店 〃 10時〜〃 9時　年中無休
――休日の前日は1人5冊迄貸出す――
P.R用品の一例……店内外装飾及店名小看板1枚150円
会員証1枚2円10銭（2,000枚作製）
貸出料金……全連の価格で，大体平市と大差ない．
ソノシート貸出料金
定価350〜400円迄　1日40円　1日過ぎる毎に　1日20円
〃 400円以上　1日50円　〃　1日20円
登録会員数……20,000人
新入会員……1日平均9人
内会員証紛失等による再入会10〜15%

会員職業別&性別			年令別	
学生	(女)3%	(男)27%	10才〜20才	80%
BG	15%	―	30才〜40才	19%
SM	―	15%	50才以上	1%
一般	24%	16%		
(計)	42%	58%		

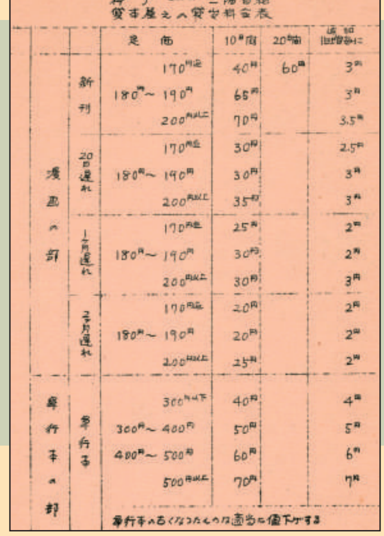
最近平均売上金額……1日10,000円（1冊当り25円平均）
最近貸出冊数
5月7日　363冊
8日　430〃
9日　432〃
10日　398〃
11日　739〃（この日の貸出数の多いのは12日が公休日のためである）
※銀座支店　1日 200〜250冊
松野読書会6ヶ年間の1日平均売上（9.10.11月の3ヶ月の平均）

	32年	33年	34年	35年	36年	37年
売上金額	¥3,690	¥5,500	¥7,000	¥8,150	¥8,330	¥9,150
貸出冊数	230冊	289冊	375冊	392冊	405冊	420冊


⑤-b

資料#2　松野読書会・在籍品貸出回数調査
―在籍帳簿による―
（1日2冊から最高10冊入荷）

単行本 書名	回数	雑誌 誌名	回数
[illegible]	8〜9	映画ストーリー(6)	8
白い壁画	11	キネマ旬報	10
江戸[illegible]	25	[illegible]	3〜4
色の道	28	近代映画(6)	6
あの橋の	7	[illegible]	5〜6
赤と黒	30	婦人雑誌(5)	10以上
[illegible]	26	たのしい手芸	18
影のない男	35	[illegible]	6
[illegible]	31	[illegible]	5
[illegible]	25	群像(5)	5〜6
[illegible]	35	文芸(5)	4
[illegible]	12	中央公論	6
[illegible]	12	世界	2
[illegible]	12	[illegible]	6〜7
[illegible]	50	[illegible]	12
早川ミステリィ	7〜8	[illegible]	1
〃	17〜20	[illegible]	4
文庫本	10	[illegible]	3
〃	40	マンハント	5
		ヒッチコック	4
		宝石(5)	5
		ガン	11〜12
		レコード芸術	3〜4
週刊誌		モーターマガジン	7〜8
週刊明星	5〜6	モーターファン	10〜15
[illegible]	4〜5	オートバイ	10〜15
週刊女性	5〜6	ゴルフ	5
女性明星	15〜18		


⑤-c

資料#3　神戸――三階書籍　貸本屋さんへ貸出料金表

		定価	10日間	20日間	返却延滞(1日毎に)
漫画の部	新刊	170円迄	40円	60円	3円
		180円〜190円	65円		3円
		200円以上	70円		3.5円
	20日遅れ	170円迄	30円		2.5円
		180円〜190円	30円		3円
		200円以上	35円		3円
	1ヶ月遅れ	170円迄	25円		2円
		180円〜190円	30円		2円
		200円以上	30円		3円
	2ヶ月遅れ	170円迄	20円		2円
		180円〜190円	20円		2円
		200円以上	25円		2円
単行本の部	単行本	300円以下	40円		4円
		300円〜400円	50円		5円
		400円〜500円	60円		6円
		500円以上	70円		7円

単行本の古くなったものは適当に値下げする

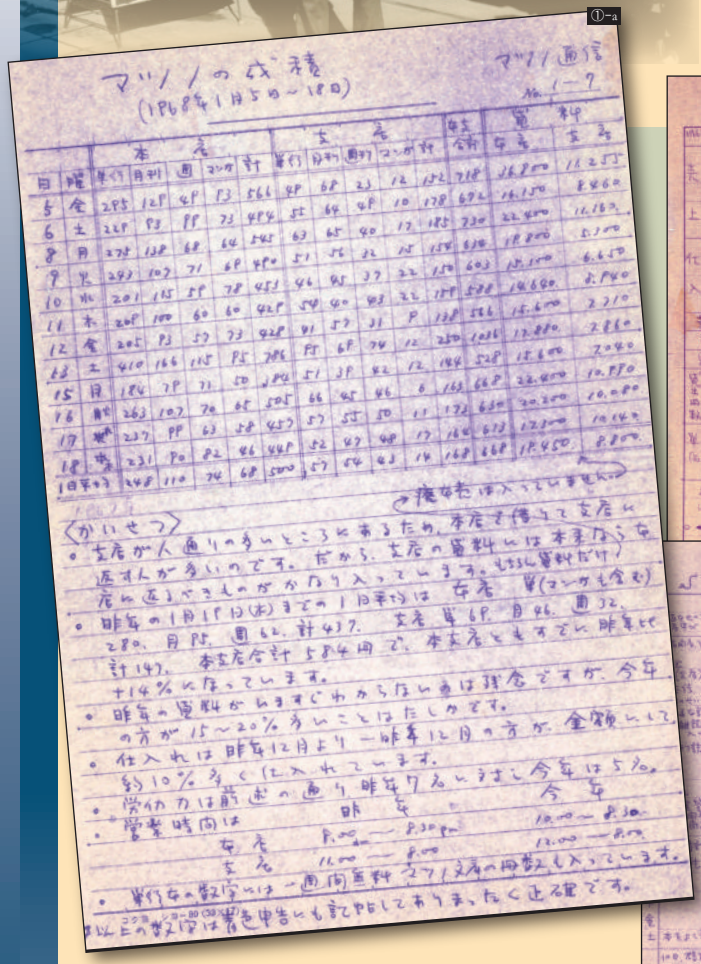
❶『貸本屋「マツノ読書会」日記1958年』
❷「就業規則」
❸「徳山、神戸貸本業界視察記」
❹「新しい時代の貸本店の手引」
❺a〜c「マツノ読書会経営参考資料」

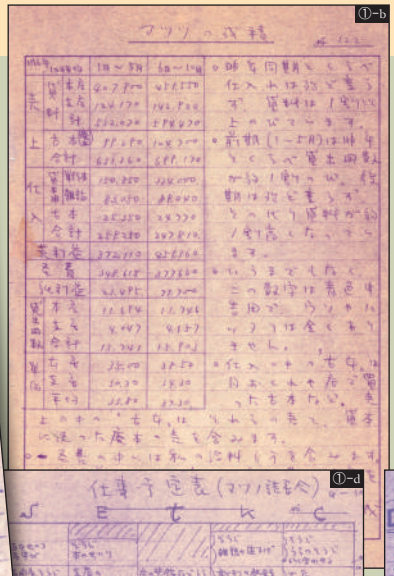
第三巻

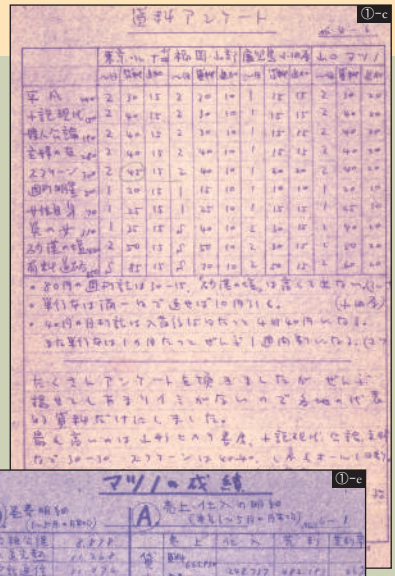
若い世代や知識層の「圧倒的な」支持を受け、
1970年時、15坪の店に6,500冊の在庫で、
年に25万冊以上を貸出。その活動を詳細に
記録・分析した㊙扱いの資料を収録。

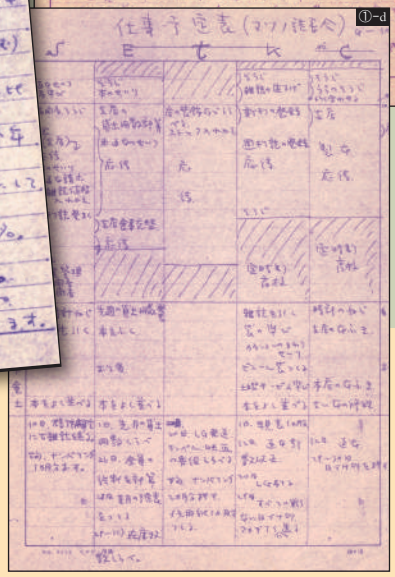
三巻……貸本屋「マツノ読書会」資料③

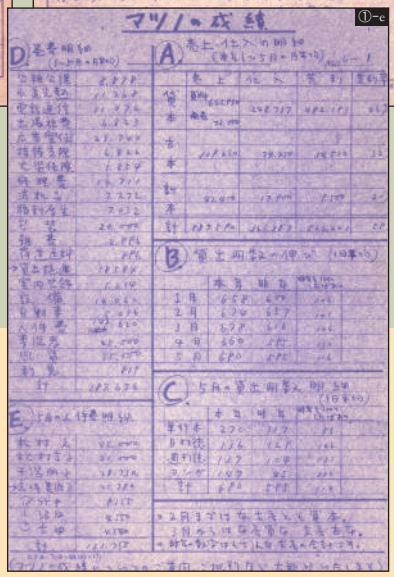
【三巻】約408頁
『貸出冊数・売上帳』1966年6月～1973年2月
『ランペル業界版―LGだより』1966年3月～〔1968年12月〕



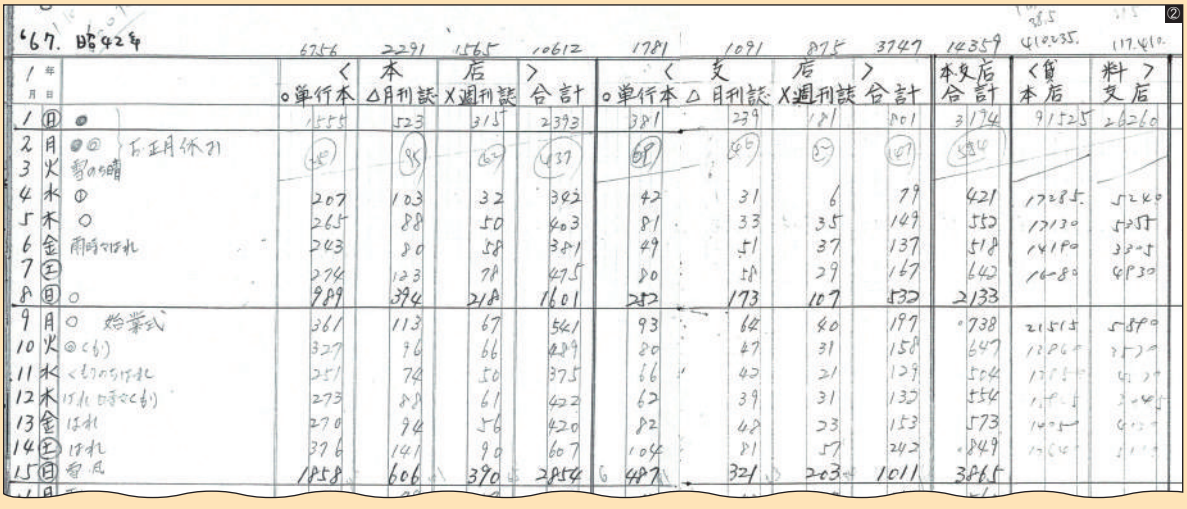






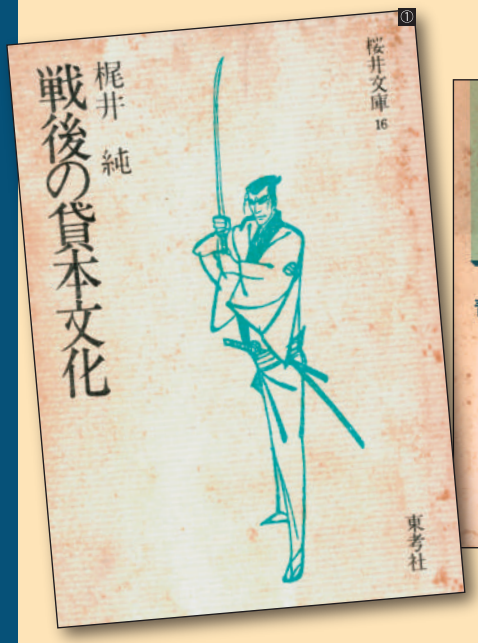


❶『ランペル業界版―LGだより』
a.〔15号　1968年1月〕
b. 7号　1966年11月
c・d. 10号　1967年4月
e.〔18号　1968年6月〕
❷『貸出冊数・売上帳』1967年1月



貸本関係資料集成
―戦後大衆の読書装置
【補遺編】

第四巻



四巻……単行図書編

【四巻】約 368 頁
『マンガに関する 12 章』
（東京都教育委員会）1959 年
『続・マンガに関する 12 章』
（東京都教育委員会）1960 年
梶井純『戦後の貸本文化』
（東考社）1976 年

❶ 梶井純『戦後の貸本文化』
❷『マンガに関する 12 章』
❸『続・マンガに関する 12 章』

馬込書房（1963 年 10 月 13 日頃）

貸本関係資料集成
―戦後大衆の読書装置
【補遺編】